

間に関係があるか。

2) あるとすれば、これの発現日と Impetigo との発生日との間に関係があるか。

140. に対する答弁 (都立駒込病院) 飯田 政美

新生児眼瞼炎及びその母親の会陰部膿疱疹より同じ抗生剤耐性及びファージ型の *St. aureus* を分離している。

140. に対する追加並びに質問

(大阪医大)

西川 潔, 久保田 昭, 田中 享

吾々も新生児咽頭ブ菌の感染様相を検した結果次の成績を得た。

1. 出生後のブ菌獲得状態は生後4日で100%を示した。

2. 医師, 看護婦の咽頭よりブ菌分離率の高いことを示した。

3. 薬剤に対する耐性ブ菌の割合はTC系に高く, EMに弱いことを示した。又多重耐性の多いことを認めた。

4. ファージ型別は1群の80株が多くみられた。

なおファージ型については Williams 等の21種のファージ型を用いてIRTD (Routine test dilution) で行ったものでありなお正確度については現在検討中である。

貴院の新生児ブ菌感染に対する対策をお教え下さい。

140. に対する答弁 (都立駒込病院) 飯田 政美

ブドウ球菌の院内感染の流行にさきがけて、新生児鼻腔に所謂「流行型」の増殖があると言われているが、このような時に鼻腔内ブドウ球菌の発育増殖を抑制する処置を予防的に行うという意味で、エリスロマイシンの点鼻、または軟膏の塗布を行うとよいと思う。また勤務者の鼻腔ブドウ球菌の定期的培養も必要であろう。

140. に対する質問 (順天堂大) 松田 静治

140及びその追加(大阪医大)に対する追加並びに質問

ファージ型別でファージ80の Pattem を示すブ菌が、吾々の所でも乳腺炎、新生児膿皮症の起因菌として最近みられておりますが、しかしこのファージを使用する場合のRTDが問題で、100RTD以上では各群との混合群が多くなる傾向があります。

大阪医大への質問

ファージ80の稀釈度はどの位ですか。

(時間切れのため答弁中止)

141. 当病院に集団発生した新生児肺炎に就いて

(人吉総合病院) 木葉矩弘, 山下 馨

昭和35年1月9日から29日迄、当病院で分娩した16例中11例が、高熱と重篤な呼吸器症状を呈したので、酸素吸入、化学・抗生剤、強心・ビタミン剤、葡萄糖等を可及的に使用・治療し、新生児室の管理も充分に行つたが、この内5名が死の転機をとつた。当時、報道関係は、病院管理だけの面をとりあげ、一方的「ニュース」とした。然し院内は、直ちにこれが対策と原因探究に全力を注ぎ、熊大の援助を得て病原検索に当つた。当時、人吉地方の1月気象状況は、中旬には、最高温度は前年より高く、最低気温は低且つ弛張激しく、下旬では、最高最低気温共に低いという、前年に比して気温動揺は大であつた。死亡例の臨床像は、何れも高熱を呈し、初期には顔面紅潮後呼吸促進、哺乳力微弱、無力状となり、次いで顔面蒼白、鼓腸、吃逆を見た。末期には顔面痙攣、チアノーゼを認めるものもあり、胸部の理学的所見は、新生児肺炎の特徴を示し、極めて軽微、濁音は証明出来ず、少許の小水泡音を聴取するに過ぎなかつた。熱型は多峰性、二峰性或は一峰性を示すものの、一途に上昇を示すものが多く、生後3～5日目に死の転機をとつた。病院のとつた対策は、第一病棟で症例1及び2が13日、14日と前後して死亡したので、原因探究に努め、病院運営委員会に対策を提供、検討の結果、臨時新生児室を設けることに決定したが、この完成途中に、症例3が22日に同病棟で死亡した。25日の新生児室完成と同時に、ここへ生活力薄弱児6名と保育器収容未熟児2名の計8名を収容した。然し、29日に相隣する症例9及び10が、同じく肺炎症状で死亡したので、感染を疑い、29日以降、児を個々に展開した。と同時に臨時新生児室を蒸気ホルマリンで消毒し、充分な監視と予防的治療を施したので、其の後の死亡を喰い止め得た。又両親の了解の下に、症例10を29日夕刻(死後約10時間)剖検した。組織学的には、肺臓は充血が高度で、浮腫が諸処に見られ、炎症の初期像を呈していた。病原的検索としては、症例10の剖検材料からは特定の細菌は証明出来なかつた。ウイルス(以下Vと略)学的検索は、孵化鶏卵の羊膜腔と漿尿膜腔に剖検の肺乳剤と気管枝分泌液を接種し、3代に及んだ。肺乳剤では両者共に陰性であつたが、気管支分泌液の漿尿膜腔内接種では、2代目に6個中1個に血球凝集を呈するVが分離された。この分離Vの同定を行い、分離株の血球凝集能は耐性熱であり、血球凝集抑制

反応により、分離はインフルエンザ（以下イと略） A_2 と同定され、イ A_2 本田/60株と命名された。又褥婦と生存児の咽頭擦拭液で、孵化鶏卵培養による ν 分離は、3代継代に及ぶも全例陰性に終った。次に血清免疫学的検索では、2月15日及び3月26日に児の母親、一般患者及び病院勤務者35名につき、血清中の A_2 型イ・ ν に対する特異抗体の測定を行い、抗体の消長を追及した結果、2月15日は、既にイの流行の末期に当たっていたものと考えられる。近時、産院や新生児室の薬剤耐性菌による汚染等、注目されつつある折柄、本事例は、新生児の取扱に対して、色々の教訓を示すものであろう。

142. 各種抗生物質及びサルファ剤のカンディダに及ぼす影響について

（山口医大）藤生太郎，戸嶋昌平

近年真菌症特にカンディダ症が注目を浴び、これに関する研究は急速に進歩し、諸家の多くの業績が発表されている。私も種々の方面からカンディダと各種抗生物質及びサルファ剤との関係を観察し、いさゝか知見を得たので報告する。

I 臨床的研究

身体各部よりカンディダを培養、分離、同定を行い、咽頭、直腸に約20%のカンディダを検出し、*C. albicans*を62.74%同定した。又虫垂内容物より14.13%のカンディダを検出し、*C. albicans*を70.0%同定した。次に結核患者の咽頭より約26%のカンディダを検出した。次に手術患者198名について術前及び術後1週目、及び112名に対し術前及び術後1週目及び2週目の身体各部のカンディダを検出したが術後1週目には有意の差を以つて増加したが2週目には殆んど変動を示さなかつた。病類別、術後投与した抗生物質の量別にみたが、悪性腫瘍に多く又抗生物質の大量投与例に高い陽性率をみた。

II 実験的研究

マウスにカンディダ症を発症させ各種抗生物質及びサルファ剤のこれに及ぼす影響を実験したが、抗生物質及びサルファ剤を使用した例に著しい死亡時間の短縮をみた。又斃死マウスの腹水及び心血の培養の結果、腹水に100%、心血に85~90%のカンディダ陽性率をみた。又斃死マウスの病理組織学的検索を行ない、各種臓器に円形細胞浸潤を認め、特に肝、腎に著明な病変を認め、特に脾に於て巨大細胞の出現をみた。

以上臨床的、実験的研究により各種抗生物質及びサルファ剤が生体に菌交代現象として働き、カンディダの発

育増殖を促進させるものと推定した。

142. に対する質問 （順天堂大）吉元 昭治

1) 吾々も昨年の宿題報告で *in vitro* の直接作用は証明出来なかつたが、*in vivo* で抗生物質のあるものは斃死率が高かつた。

2) 虫垂手術前に抗生物質を投与したものに、分離率が高かつたでしょうか。

3) 消化管の部位による分離率の違いがあるでしょうか。

142. に対する答弁 （山口医大）戸嶋 昌平

虫垂切除術を行つた患者の術前抗生物質投与如何については、本人の供述によつて術前は健康であつたものを例にとりました。

142. に対する追加 （日医大）千田 智勇

われわれも、抗生剤の投与による、腔内カンディダの消長を観察したが、対照的に比して明らかに高率な検出率を示した。然しこれら陽性例は、大多数は臨床所見は軽度であつたが、全身状態が極めて不良な少数例で重症な全身性カンディダ症を経験している。

143. 婦人科領域に於ける免疫化学的研究（第3報）

（金沢市内田病院）内田 一，松井健二
作川憲章，河野義博，足立 登
松柳豊志，西村明子，鍛冶妙子

昨年度の本学会に於ける報告に引続いて、今回は特に胎盤の異常増殖に伴う血清蛋白質の変動を中心として免疫化学的に追究した。当院にて昨年1月1日より11月30日に至る迄に治療した胞状奇胎8例、絨毛上皮腫7例、子宮頸癌91例中から適当な症例を選んで、それらの患者血清を家兎に注射して各種抗血清を作り、それらを用いて、胞状奇胎、絨毛上皮腫、子宮頸癌患者血清並びに妊婦血清、正常人血清を種々の組合せに於て、寒天ゲル拡散法¹⁾、寒天免疫電気泳動法²⁾

¹⁾Ouchterlony methode ²⁾Grabar methode

により比較検討した。

抗原抗体反応に基づいて得られる沈降線をより一層明示し、更に各沈降線に関与する抗原を比較分析する為に、同一寒天板を2~3枚に薄切し、これをガラス板にはつて、乾燥フィルムとして後、蛋白染色、糖蛋白染色或いは脂肪染色等を施すことにより、同一 Immuno gram を各種の染色態度から更に考察を加えた。

その結果、抗胞状奇胎家兎血清と胞状奇胎血清との間